

## 第 25 期日本学術会議 第 2 回健康・スポーツ科学分科会議事録

日時：2021 年 5 月 20 日（木） 19 時 00 分～21 時 15 分

場所：Zoom による Web 会議

出席者：家光委員、小熊委員、柏野委員、川上委員、神崎委員（議事記録者）、佐々木委員、定本委員、寒川委員、田畑委員、宮地委員、山口委員、來田委員、磯委員（オブザーバー）、小松委員（オブザーバー）

欠席者：荻田委員、福林委員（途中参加）

前回議事録（第 1 回健康・スポーツ科学分科会）について宮地委員より説明があり、（会議終了後）承認された。

小松先生（健康・生活科学委員会）、磯先生（パブリックヘルス科学分科会）より挨拶があった。各委員の挨拶があった。

### コロナ禍における東京オリ・パラ開催に関する意見交換

- 宮地委員より「コロナ禍における東京オリ・パラ開催に関する意見交換」の趣旨について説明があった。
- 小松先生より「コロナ禍における東京オリ・パラ開催に関する」検討が学術会議（健康・スポーツ科学分科会だけでなくいくつかの分科会）で必要である経緯および背景について説明があった。
- 磯先生より「コロナ禍での東京オリ・パラ開催における科学的データアーカイブの形成と安全保障の観点からの各国の協力体制に関する緊急提言」について説明があった。海外の選手団・関係者、日本の選手団・関係者、日本の観客についての行動に関する提言について説明があった。
- 宮地委員より小松先生および磯先生の説明をもとに、各委員内で意見交換をする趣旨について説明があった。

### <自由討論>

- 組織委員会に（磯先生ご作成の）追跡調査について提案した。組織委員会において、理事会では報告レベルであり、情報が最新でない。専門会議を立ち上げたところである。専門会議では、選手および役員はプレイブックに従うであろうが、海外のメディア関係やボランティアはプレイブックに従わない可能性があり、それを懸念している。医師ボランティアは 400 名程度確保しているが、これに安心してはいけない。個人的には、観客については、早急に無観客に決めるべきであると考えている。選手団に随行する医師団については、国内による外国人医師の医療行為の制約がある。これを選手村に限っては医療行為を行うことができるように働きかける。

- JOC では、組織委員会ほど理事会は頻繁に開かれていない。JOC は、日本選手団をどのようにコントロールし、選手の安全を守りコンディショニングを整え、オリンピックで活躍させるという立場で、競技団体との情報交換を頻繁に行っている。選手へのワクチン接種が決まったが、アスリートがこのことをどのように感じているのか？個人的に心配している。コロナウイルスに関心がいきがちだが、オリンピックの期間では熱中症の危険性があり懸念材料である。VIP とスポンサーは入国してくるのは間違いない。国内の VIP も動く可能性がある。7 月に緊急事態宣言が発令されていたら、開催はどうなるか？と組織委員会に聞いたところ、組織委員会ではその議論はしていない、との回答があった。JOC として緊急事態宣言が出ている中でオリンピックを開催することを議論すべきと JOC の理事に提案した。JOC 内では緊急事態宣言が出ている場合でもオリンピックを開催するという雰囲気である。
- オリ・パラを中止するというのが一番簡単な選択である。オリンピックは遊びのイベントではなく国際的にも担保されている。IOC は国連総会のオブザーバー資格を持つ団体であり、ただのスポーツ団体ではない。IOC はスポーツを介して青少年教育、スポーツを介した国際交流を通して世界平和をつくるという団体である。人類はこのような危機（戦争・災害・疫病など）を何度も経験しているが、そのたびにこのようなイベントを中止しなくてもよいかを考える。モデル案を科学者がつくることは二ヶ月では無理ではないか。
- もし中止するとなるとどうなるか。歴史的には戦争のみであり、そのときのプロセスをみてる（IOC の議事録）と、大会組織委員会は開催を前提に直前まで議論していた。したがって、中止を長期間にわたって議論することはなく、IOC 自身が、時間をかけて中止をするというスキルを持っていない。開催都市契約を見直したところ、東京都と JOC で締結しているが、組織委員会は大会を運営するための準備を粛々と行う組織である。中止を決定する条件は 5 つありそのうち、現在の状況は参加者の安全が守れない場合、不測の事態が起きたとき、に該当すると考えられるが、中止を決定するのは IOC だけであり、組織委員会にその権限はない。不測の事態が起きたときに組織委員会はそのことに対する合理的根拠を示して、IOC に対応を相談することができる、という一文がある。歴史的には、中止ではなく返上する（証明する必要がある）。開催することも大変であるが返上することはもっと大変である。賠償金は発生しない（条文にはない）。IOC は国連のアドバイザーの組織であり、国連よりも加盟国が多く、国際的なネットワークをとおして、スポーツを通じてコロナ禍での平和に寄与する情報を提供していない、という IOC の姿勢はスポーツ人として指摘すべきである。
- これまで意見を聞いて、オリンピックのレガシーを後世に残すことが重要であると認識した。時間は無いかもしれないが、オリンピックの意義を国民に示すべきである。開催の有無は、政治家ではなく国民の総意であるのが筋である。オリ・パラの開催に関してプラスとマイナスの情報を客観的に示す必要がある。

- オリンピックの開催の有無に関わらず、オリンピックの根本的な意義や記録について教育のレベルで子供達に伝えることが大事である。
- アカデミアとしてなにをするのか？と疑問に思っている。オリ・パラを開催したときの考えられる問題点を指摘する。再延期した場合の根拠を示す。オリ・パラの意義を国民に理解してもらうことを提言することがアカデミアの役割である。オリ・パラあわせて1万5000人の選手が来たときに必ず感染例が起こる。そのときに、公平性を担保することが必要である。参加国をフィルターかけることができないため、今感染が重大な国に対してどのように担保するか問題である。オリ・パラの本来の姿と現実の姿をどのように捉えるか。議論の方向性を決めて建設的な提案をアカデミアとして粛々と実現すべきである。
- 後世に残すためのデータとはなにか？感染がどのように拡大するかについては行動データが必要であるが、VIP やスポンサーを追えるのであろうか？（プライバシーの問題など）。技術的にはデータ取得可能であるが、プライバシーの問題などでそのデータを生かせるか？データを取得できたとしても感染拡大がどのように拡大したか？ということ解析できないことが懸念される。全選手から行動データを取得・解析できれば、どうして感染が拡大したのかがある程度わかる。追跡のアプリがあるが、それが機能していないという現実がある。
  - ↳ オリ・パラ専用の追跡アプリが開発されているのではないか？
  - ↳ 行動データ、ワクチン接種など、「準備する」「コントロールする」「その結果」という三点セットでなければサイエンスにならない。
  - ↳ 厚生労働省、東京都、大阪府等で新型コロナウイルス接種確認アプリは開発・運用されているが、あまり機能していない。日本では、感染者の行動履歴を公開できていない。
- IOC は安全をどう担保しているか？我々（委員）が理解していない。そのため、この委員から発言することは困難である。中止（戦争以外に中止したという歴史がない）の選択などについて、オリンピックの歴史などのしっかりと国民に知らせる。磯先生の緊急提案に來田委員および山口委員の本日の発言を付け加えることが必要と考える。
  - ↳ 医学的な視点だけでなく人文社会的視点で記録として残す必要がある。
- 今後のスポーツに関して、コロナということが常に弊害になり、制限がかかることが懸念されるため、安全安心に今後もスポーツが続けられるような環境作り（エビデンス）が必要である。バブル方式で、コロナ禍であっても、さまざま国で世界大会が行われている。これら大会についてどのような対策をしているかの情報を提供することで、国民は少し安心するのではないかと考えている。
- 治療に関わっている医師、準備をすすめている医師の両方に接しており、両方の立場の医師とも精一杯行っている。学術会議としては、長期的な視野を含めて建設的な提言をすることと理解している。

- オリ・パラ開催に関して、どのような感染症拡大防止を行っているか、国民に公開して、それを模範として、オリ・パラの裾野である各種大会（中学生・高校生・大学生）も感染対策をとって開催することでオリ・パラ開催の国民の理解が得られると思う。オリ・パラのようなメガイベントでは、サクセスクライテリアが設定されていると思うが、その線引きはIOCや組織委員会でコンセンサスは得られているのか？疑問である。オリ・パラ開催中であっても感染拡大が認められたらミニマムクライテリアあるいは中止に柔軟に変更するなどが必要ではないだろうか。